

鳥羽市地域公共交通会議 会議録

会議の名称	令和4年度第1回鳥羽市地域公共交通会議定期航路幹事会
開催日時	令和4年5月31日（木）13:00～14:50
開催場所	鳥羽市役所西庁舎 3階 中会議室
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつ 2. 新委員の紹介 3. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和3年度鳥羽市地域公共交通会議決算について (2) 令和3年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果について (3) 令和3年度定期航路旅客及び荷物輸送実績について (4) 令和3年度鳥羽市定期航路事業特別会計の決算見込みについて 4. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和4年度鳥羽市地域公共交通会議スケジュール及び予算（案）について (2) 鳥羽市地域公共交通計画の評価等結果について (3) 鳥羽市地域公共交通計画実施計画（令和4年度版）（案）について (4) 生活交通確保維持改善計画（案）について 5. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 公共交通の利用促進に向けた案内表示の現状と課題 (名古屋大学大学院環境研究科様と鳥羽市とのフィールドワーク結果報告)
会議資料	事項書・席次表・委員名簿 【資料1】 令和3年度鳥羽市地域公共交通会議決算 【資料2】 令和3年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果 【資料3】 令和3年度定期航路旅客及び荷物区間別輸送実績集計表 【資料4】 令和3年度鳥羽市定期航路事業特別会計決算見込 【資料5】 令和4年度鳥羽市地域公共交通会議スケジュール及び予算（案） 【資料6】 鳥羽市地域公共交通計画の評価等結果 【資料7】 鳥羽市地域公共交通計画実施計画（令和4年度版）（案） 【資料8】 生活交通確保維持改善計画（案） 【資料9】 近鉄鳥羽駅周辺案内表示改善イメージ
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	2人
出席委員	立花会長、中村委員、生川委員、木下委員、福田委員、山下委員、山本委員、高木委員、小寺委員、寺田委員
オブザーバー	なし
欠席委員	清水委員、西川委員、高浪委員
事務局	企画財政課 中村、田畑、小崎 定期船課 山本、西根、角谷
1. あいさつ ○事務局長 ・開会 ・配布資料の確認 ・出欠報告 ○会長挨拶 本日はご多忙中お集りいただきまして、誠にありがとうございます。 各関係機関、離島地域の自治会様におかれましては、日ごろ、市政運営へのご協力をいただき深く感謝申し上げます。 さて、世間では人口減少などによって地域公共交通の利用者は減少傾向にあると言われておりますが、高齢化・人口減少社会を迎えたからこそ、点在する集落と中心地域、人々とサービスをつなぐ交通ネットワークの重要性がさらに増していくものと考えております。	

特に、市営定期船は、各離島と鳥羽の市街地とを結ぶ唯一の公共交通であり、離島地域の人々の生活・利便性に大きな影響を及ぼすことから、非常に大きな役割を担っておると考えております。

コロナ禍にあって、人流の抑制、公共交通機関の利用控えなどと、地域公共交通にとって非常に厳しい局面を迎えておりますが、この鳥羽市の自然的・経済的・社会的条件に応じた活性化策について、お集りの皆様が当事者として共に意見を出し合い、持続可能な地域公共交通に向けた方策を探っていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 新委員の紹介

事務局より新委員を紹介。

3. 報告事項

(1) 令和3年度鳥羽市地域公共交通会議決算について

○事務局

資料1により令和3年度鳥羽市地域公共交通会議決算（案）を説明。

○監査報告

監事中村委員より、監査の結果、出納は適正であった旨を報告。

○委員の質問等

・委員

時刻等の「見える化」対応委託料について、委託先はどこであるか。

・事務局

委託先は、三重県となります。

○採決

原案どおり承認。

(2) 令和3年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について

○事務局

資料2により地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について報告。

○委員の質問等

なし

(3) 令和3年度定期航路旅客及び荷物輸送実績について

○事務局

資料3により航路別の旅客収入と荷物収入の前年度比較結果について報告。

○委員の質問等

・委員

荷物収入について、コロナ禍においては、一般的にインターネット注文による宅配が増加する傾向となるが、これが若干ではあるものの減少していることに関しどのような理由があるのか。また、一般定期乗船の減はどのように捉えているか。

・事務局

小荷物の取り扱いについて、一昨年（令和2年度）には、コロナ禍の影響で荷物取り扱いが前年度に比べ増加しました。令和3年度においては、自然減による誤差であると捉えている。

・会長

小荷物取扱いはしばらく増加傾向にあったものが減となっている。インターネット注文の発展・増加による伸びと人口減少による減との加減具合、また、出控えが若干緩まったことも影響していると考えられる。一般定期乗船料の減と回数券の増の関係は、市が経済対策として行ったプレミアム商品券事業による回数券購入が増加したことも影響していると推定する。

(4) 令和3年度鳥羽市定期航路事業特別会計の決算見込みについて

○事務局

資料4により令和3年度鳥羽市定期航路事業特別会計の決算見込みを説明。

○委員の質問等

・委員

延滞金加算及び過料について、詳細は。

・事務局

定期券の不正乗船によるものです。

4. 協議事項

(1) 令和4年度鳥羽市地域公共交通会議スケジュール及び予算(案)について

○事務局

資料5に基づき、協議・検討に関するスケジュール、その他利用促進に向けた会議等のスケジュール及び予算(案)について説明。

○委員の質問等

なし

○採決

原案どおり承認。

(2) 鳥羽市地域公共交通計画の評価等結果について

○事務局

資料6に基づき、個別事業評価チェックシート、評価指標チェックシートについて抜粋して説明。
(主な説明)

・個別事業評価チェックシート

目標Ⅰ 低年齢層や親子向けの働きかけ

目標Ⅱ とばすまっぷの見直し、定期航路のキャッシュレス化、観光情報の発信

目標Ⅲ ネット検索への対応、企画乗船券のデジタル化

目標Ⅳ 定期航路のダイヤ再編、答志島内での陸上移動手段の検討

目標Ⅴ かもめバス、定期航路の効率的な運行・運航

目標Ⅵ 老朽船舶の更新

目標Ⅶ 離島の救急搬送体制の構築

・評価指標チェックシート

乗継割引券利用枚数

周遊券販売枚数(かもめバス、市営定期船)

各地区で関係各課と地域の方が移動について話し合う回数

○委員の質問等

・委員

去年の会議において、例年コロナで売り上げが減少していく中で、地元の運賃を現状維持又は下げ、観光客の運賃のみ上げることに関し意見があったが、検討状況はいかがか。

・事務局

航路改善協議会においていただいた意見であると記憶している。他地域において現にそのような料金体系で運用されている例があるため、情報収集をしている段階。

・委員

救急搬送体制の構築について、救急時は消防署に連絡しなさいというしかない状態であると理解しているがいかがか。

・委員(市)

通報時の搬送する船の手配順序については、消防署が行うこととなっており、搬送する方・関係者の所有船を優先とし、次いで遊覧船を手配する順としている。

○採決

原案どおり承認。

(3) 鳥羽市地域公共交通計画実施計画(令和4年度版)(案)について

○事務局

資料7に基づき、主に令和3年度事業進捗を踏まえた変更点について抜粋して説明。

(主な説明点)

- 2-4 かもめバスのキャッシュレス化（前倒し実施により令和3年度に完了）
- 4-2 答志島における陸上移動手段の検討（取組み始点を令和4年度に変更）
- 4-3 かもめバス、交通不便地域の福祉バスの再編（取り組み期間の延伸）
- 4-4 施設の統合、集約化の検討等（取り組み期間の延伸）

○委員の質問等

・委員

答志島内の移動手段については、令和4年度に決着をつける予定であるのか。

・事務局

グリーンスローモビリティに関しては、財団への申請が通ればということになる。もし通らなければ、また実施計画を変更させていただきたいと考えている。また、地域の大きな考え方については、令和4年度に聞かせていただければと考えている。

※その他議題外の事項に関する意見等（答志町個人医院に関する件）に関しては、記載を省略

○採決

原案どおり承認。

(4) 生活交通確保維持改善計画（案）について

○事務局

資料8に基づき説明。

○委員の質問等

なし

○採決

原案どおり承認。

5. その他

(1) 公共交通利用促進に向けた案内表示の現状と課題について

(名古屋大学大学院環境研究科と鳥羽市とのフィールドワーク結果報告)

○事務局

今日の発表に至った経緯としましては、昨年度3月に公共交通の利用促進に関する懇談会を開催し、特に駅からバスセンター、駅からマリントーミナルへの導線について、市の関係課と加藤教授、名古屋大学大学院の研究室学生とでフィールドワークを実施しました。

外からの目線は非常に重要で、見慣れてしまって気づかない視点等、気づきを共有させていただいて、今後のあり方を考えるきっかけにできればと思います。

名古屋大学大学院環境研究科の清水さん、原さんに発表をいただきます。

○発表者（名古屋大学大学院原さん、清水さん）

資料「公共交通の利用促進に向けた案内表示の現状と課題」により、フィールドワークを行った結果として、わかりにくい案内、更新されていない案内、導線をわかりやすくするための提案に関し、別紙資料をもとに説明。

○委員の意見交換等

・委員

駅からマリントーミナルへのルートに関して、観光客の視点で2つのルートを想定いただいたが、地元の方が使う最短ルートはまた違う。横断歩道が無いため案内ルートとはなりにくい。

・発表者

今回は、パールビル沿いのルートは上屋がある全天候型ルートとして提案させていただいた。今回の提案にない地元の方が使うルートに関しては、マップ上で表現するなどしていただくと良い。

・会長

近鉄電車で鳥羽に入ると鳥羽商船のあたりで海が見える。観光客はそれだけで「海が見えた」と反応する。離島を有する独特の景色があるところを見ていただき鳥羽らしさを感じながらターミナルに行っていただくということに関しても主眼を置いて頂いている提案だと感じた。

・発表者

パールビルの現状から、観光客にはパールビル沿いよりは海側を歩いて欲しいとの意見もあり、しおさいストリートのルートの提案をさせていただいた。

・委員

今回いただいた提案は、日々の案内業務を行うにあたり、痛感していることばかりであったので、やっとわかっていただけの方と巡り合ったと嬉しい思いである。市役所の方も市民代表の方もそれぞれに気づきがあると思う。市の人口減少の中で、観光利用促進を期待する。また、バリアフリー目線としてのエレベータの案内表示に大きな問題を感じている。エレベータへ向かう通路は照明も不十分で薄暗く、天候や時間帯によっては全く見えない表示となるので、視認性の高い表示方法が望まれる。

・委員

市営定期船という言葉に関し、観光客は「フェリー」と表現することが多い。船＝フェリーという感覚がある。どのように感じたか。

・発表者

この地域には伊勢湾フェリーもあり、また、一般的に旅客船全般をフェリーという表現が通用しているため、見る側の意識を変えることは難しい。表示としては“市営でやっている船”という点をアピールすることは大切であると感じる。

・委員

観光客からフェリーについて尋ねられた場合、伊勢湾フェリーであるのか、遊覧船であるのか、市営定期船であるのかをまず確認しないといけないのが現状。表示にも配慮が必要。

・委員

今回の発表は、大学院生のフィールドワーク結果として受け入れ、今回いただいた意見をどう活かすかということは、今後の関係者との検討となるが、今回の提案で外国人向け表記に関する視点を忘れず考慮に入れていただきたい。

○会長

今回は、鳥羽駅からの誘導にあたり観光客目線での気づきをメインに提案いただいておりますが、将来的には大型客船も戻ってくるとお思いますので多言語表示を含め一体的な表示には配慮したい。

今後進めていくにあたり、施設の管理者がそれぞれいますので、個々に任せて対応するのではなく、様々なハードルはあろうがわかりやすい案内表示に変えていくために調整していきたい。

※その他議題外の事項に関する意見等（パールビルの件）に関しては、記載を省略

6. 閉会